



久保田由夫 ほっと通信



NO. 78
2018. 6. 10
【部内資料】

発行 くぼたよしお事務所 ☎42-6361 fax 42-5630

<久保田由夫のブログ・フェイスブック・ホームページもご覧ください>

日本共産党



<季節の写真>

(6月2日撮影) 信州国際音楽村バラ園にて。例年よりは早く開花。

◆6月6日、東御市と長和町で8月の県知事選挙に立候補を表明している金井忠一さんが長野県政の三つの転換を熱く訴えました。◆第一の転換 国の悪政にものを言える県政を。愛媛県知事を引き合いにわかりやすい訴え。◆第二の転換 県政を県民の目線で。大北森林組合の補助金不正事件(14億5千万円。7年間も続いたことや知事などの幹部が責任を現場職員に押し付ける、あきれた県政の体質を転換する。◆大型開発推進からの転換。県の借金は1兆7400億円当初予算の倍以上になり、史上最大の借金に。◆3月に上田市長選挙が終わり、あまり時がたっていないのに県知事選挙へ挑戦する情熱あふれる政治家である金井忠一さんへ期待はこれから大きく広がることは、間違いないと確信しています。◆県政が身近でなく、いまいち関心が低いのが課題ですが、77市町村の隅々までまわって訴えていく決意も表明されました。県政の実態を知らせ、県政の転換を太く大きく訴えていきましょう。



「子どもの貧困対策」「人口減少社会と公共施設」一般質問を行います



6月5日、上田駅前でのモーニングスピーチです。
祝祭日を除く、月曜日の朝上田駅前朝宣伝をしています。

6月議会が始まりました。6月4日から25日まで。

◎私は、今回は3月議会の積み残し、継続した質問である

「子どもの貧困対策」と新規項目として「人口減少社会と公共施設のあり方」を取り上げます。

◆子どもの貧困が社会問題になってからは数年たちます。私が市議会で最初にこのテーマを取り上げたのは、平成27年3月の共産党市議団の会派代表質問です。それ以降、平成27年6月議会、12月議会、平成29年3月議会、今年(平成30年)3月議会以来6回目の質問です。

◆今回は、代表質問は古市順子議員が行いますので、私が一般質問で、土屋陽一市長の見解を質します。土屋陽一市長の所信表明ではこのテーマに触れていませんので、注目しています。ちなみに、母袋創一市長は「子供の将来が生まれ育った環境によって左右されることのないよう、貧困の状況にある子供が健やかに育成される環境を整備するとともに、教育の機会均等を図るため、子供の貧困対策を総合的に推進することが大切でございまして、取り組むべき課題である」(平成27年3月議会)と答弁しています。

また、奨学金制度の基本方針、長野県が行った「子どもと子育て家庭の生活実態調査」にもとづく質問を行います。

発想の転換、手法の工夫が必要

◎人口減少社会と公共施設について、国の考え方はこの間、インフラ長寿命化基本計画策定<2013年(H25年)11月>および公共施設等総合管理計画の策定を要請<2014年(H26年)4月>により、国の指針(ガイドライン)に基づいて全国の市町村が策定することとなりました。先ごろの市町村議会議員研修会(岡山市)の研修内容も踏まえた質問となります。

これまでは、行財政改革大綱などによりもっぱら市町村の執行する業務が中心でしたが、今回は公共施設の老朽化、市町村財政の悪化、人口減少社会への突入などを背景に、公共施設の整理・統合・廃止などに踏み込むものとなっています。これまでは人口が増えることを見込んで公共施設・インフラ(上下水道・橋・道路)整備を進めてきましたが、今後は発想の転換が求められています。

現在の公共施設(上田市では396施設)、上田市スポーツ施設整備計画では102施設が位置付けられています。

今後の公共施設のあり方をどのようにしていくか、これまでの考えからの発想の転換は、市役所だけでなく、市民にも求められています。全国の自治体ではさまざま創意工夫をして、市民要望を最大限とりいれた公共施設等総合管理計画をたてているところもあり、この点も紹介しながら質問します。

上田市立地適正化計画(案)は、説明会や意見公募の対象です。コンパクトシティという考えで、「無駄の少ない生活や行政を目指すもの」ですが、面積が広く、居住地もひろがっている上田市に合ったものかどうか問われます。この点から質問をします。

